

# 漫才における「ボケ」の質的特徴と形態的特徴

安部 達雄

【キーワード】笑い 漫才 ボケ フレーム スロット

## 1. はじめに

日本語において、表現主体がどのように「おかしみ」を効果的に伝達しているのか、という過程をさぐる際、従来の研究ではいささか「おかしみ」を感じる箇所の意味論的な分析に偏る傾向が強かった<sup>1</sup>。こうした分析の問題点は、「おかしみ」の対象(なににおかしみを感じたのか、というその対象)の構造的把握が欠けている点にある。というのは、「おかしみ」の対象の構造的把握と、さらにその構成要素の実現過程をみなければ、「おかしみ」を感じる箇所が文脈的に作り上げられている過程を検証したことにはならないからである。

そこで本研究は、表現主体が意図した「おかしみ」が理解主体に伝達され、「笑い」という現象に結実することの多い漫才という話芸を扱って、従来の漫才用語である「フリ」「ボケ」「ツッコミ」という機能に注目し、「おかしみ」を伝達する過程を段階的に検証した。本稿では、なかでも実際に「おかしみ」を感じさせる「ボケ」の部分の、質的特徴と形態的特徴について考察した結果を示したい。

いま、ここでは「笑い」という用語の指示範囲が広くかつ曖昧なため、正確を期するために「おかしみ」という言葉を使用しているが、考察にはいる前に、まず本稿で扱う「おかしみ」という用語の定義を明記しておく必要がある。

「おかしみ」とは、「笑い」という「現象」を喚起する要因のひとつであり、「おかしみの笑い」とは、中村明(2002)の言う「認識した対象を解釈する過程を経て生じる笑い」である、という立場をとる。

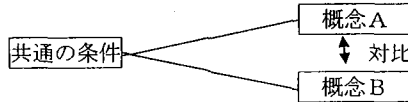
この際、おかしみの「対象」となるものは、従来から指摘されてきた通り、不適合なもの、あるいは「ズレ」(ショーペンハウエル(1972、原著1966))、あるいは「ズレ解決」(ケストラー(1983、原著1978))、とさまざまな説明はできるが、そのどれにも共通するのは、二つの概念の関係が問題にされているということである。したがって本稿では、おかしみの「対象」には、「異なる二つの概念の対比」

---

<sup>1</sup> たとえば中村平治(1996)では、笑いの技巧に「繰り返し」(他の発言をまねる、音をそろえる、ものまねをする)、「脱線」(期待をはずす、緊張をほぐす、攻撃をかわす、順序を逆にする、等)などを挙げているが、これらは笑いを惹起する言語のレトリカルな分析というよりは、笑いが起きた箇所限定での発話内行為・発話媒介行為の意味論的な分析であろう。こうした観点からの研究は、秋田(1972)から続く伝統的な研究と違って差し支えなからう。

の構造がある、という立場をとる。構造的に「異なる二つの概念の対比」を有し、その対比が「異質である」と理解主体が判断した場合、そこに「おかしみ」を感じる、というわけである。

したがって、ひとつの文脈に、まったく別の二つの概念が存立している構造、ここにおかしみを感じさせる可能性があるといえる。おかしみの構造を図<sup>2</sup>に示すと、以下のようになる。



これを「おかしみの構造図」（以下、「図」）と呼ぶことにする。例えば、

例1) 【ダウンタウン①】

《誘拐犯＝松本＝が、被害者の親＝浜田＝に脅迫電話をかけている場面》

17 松本：（電話）「お前とこの息子な、オレとこで預かってんねん」

18 浜田：（電話）「え！」

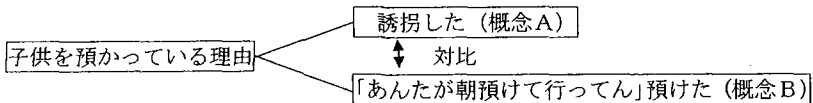
19 松本：「預かってんねん！」

20 浜田：「いや！」

21 松本：「驚くことあらへん、あんたが朝預けてっ行ってん」（電話をきるしぐさ）

22 浜田：なにを言うてんねん！

の例では、下線部においてはじめて「二つの概念の対比」がみてとれる。つまり、「おかしみ」を感じさせる可能性がある。これを図で示すと、以下のようになる。



なお、本稿で扱う用例に関しては、実際に上演された漫才で、市販のものをしている。これは知名度があり、比較的多くの観客に受け入れられ続けている、という基準を設けたことによる。文字化は手作業で行い、台本形式で筆記した。各用例の頭には演者と、必要な際は場面説明を付した。演者の発話には、発話者と発

<sup>2</sup> 小泉(1997)の図を参考とした。小泉(1997)におけるジョークの図式でいうところの「形」を「共通の条件」、「上位項」を「概念A」、「下位項」を「概念B」、「転移」を「対比」と呼称した。これは、必ずしも「上位」から「下位」への転移だけではないこと、また転移という動的な要素ではなく、対比そのものにおかしみの要因があると考えたことからである。また、共通の条件とは、関(2002)における転回軸とほぼ同義で、関(2002)は、二つの概念を「既成概念」と「獲得概念」と呼んでいる。

話番号を付し、用例は必要な部分のみを抜き出し引用した。

また、分析にあたっては表現主体寄りの観点から考察する。

## 2. 「フリ」「ボケ」「ツッコミ」の概念

さて、本稿で考察するのは漫才における「ボケ」についてであるが、「ボケ」の質的特徴ならびに形態的特徴を考察するには、おかしみの図に加え、その先行部分に存在する「フリ」、双方からの対応関係を念頭におくことが必要である<sup>3</sup>。これは「ボケ」によって完成する図の構成要素の実現過程をさぐるために必要な観点である。

そこで、ここでは本研究の着目点である従来の漫才用語「フリ」「ボケ」「ツッコミ」<sup>4</sup>という概念について簡略に述べたい。これらの概念は、未だ正確に定義されていないが、効果的におかしみを伝達する過程を段階的に把握できるものであると考える。本研究では、

「フリ」＝ボケの先行部分でおかしみを効果的に伝達する表現（主に共通の条件、概念Aを設定、導出<sup>5</sup>）

「ボケ」＝おかしみの構造図を完成させる表現<sup>6</sup>（主に概念Bを設定、導出）

「ツッコミ」＝ボケの後続部分でおかしみを効果的に伝達する表現（おかしみの図の存在を伝達する）

と定義して、まず大まかな分類をし、考察を行った。本稿では言語的アプローチに限定して考察するので、諸表現はすなわち言語表現、言語操作と限定するものとする。

この定義にしたがえば、例1のフリは17・19松本、ボケは21松本、ツッコミは22浜田、となる。

## 3. フリに関して 「スジフリ」と「マエフリ」

理解主体（ここでは観客）におかしみを感じさせる可能性を有する言語表現の多くはボケの発話によるものである。ボケはそれ単体ではおかしみを感じさせず、

<sup>3</sup> 詳しくは安部(2004)を参照されたい。「ボケ・ツッコミ」よりも「フリ・ボケ」のペアがおかしみの実現に必要な、密着度の高いペアであることを指摘した。

<sup>4</sup> 先行研究では、金水(1992)において「ボケ」と「ツッコミ」という用語が採りあげられている。またこれらの漫才用語が市民権を得て定着したのは、澤田(1977、pp126～127)によれば、コント55号が活躍した昭和40年代後半あたりかららしい。

<sup>5</sup> 本稿では実際の発話と、そこから読み取れる概念(発話意図)を分けて考察しているため、実際の発話が概念を設定しているものを「設定」とし、次の発話・概念を導き出す役割をしている発話を、「導出」の役割を担っているものとしている。

<sup>6</sup> 「おかしみの構造図を完成させる表現」としたのは、実際には「ボケ」そのものがおかしみを実現しているのではなく、「ボケ」によっておかしみの図が完成し、結果としておかしみが実現する、という立場からである。

ボケにいたるまでの表現によって周到に用意された文脈とボケの表現によってはじめて完成するおかしみの図が、おかしみを感じさせる要因となっている。したがって、実際のボケを考察するにあたり、おかしみの図の諸要素を設定・導出する働きをもつ「フリ」は見逃せない。本稿の目的であるボケの質的・形態的特徴の把握はこのフリとの対応関係によって明らかになると考えるので、ここでは安部(2004)におけるフリの二大分類「スジフリ」と「マエフリ」を簡略に述べたい。

「スジフリ」は、話題設定において、フレーム<sup>7</sup>を活性化させるもので、おかしみの図の諸要素を設定または導出する働きがあるものである。たとえば例1のように誘拐犯の脅迫電話が話題にあがっている場合、ここでは話題設定の段階で「誘拐犯の脅迫電話」フレームが活性化されており、「犯行声明」「身代金要求」「受け渡し方法」「受け渡し場所」「子供の生存確認」「逆探知」などが後に来るべき話題として仕組まれている。また、その前提として「誘拐犯」フレーム、つまり「自分の名前を明かさない」「居場所を教えない」「自分の話はしない」「高額な金品を要求」なども活性化される。表現主体は、これら暗示的に文脈に含意される概念を、図の諸要素に設定しているといえよう。つまり、話題設定において複数の概念を文脈的に含意させる言語操作、これがスジフリである。

次に「マエフリ」は、会話において、ある話題についてその内容を深化させるタイプの話題提供である。スジフリとは違って次にくるべき発話の内容や形式を、ある程度具体的に予測させたり制限させたりする働きがあるものである。たとえば次の例2における13松本「おまえとこなあ、小学校2年生の息子おるやろ」は、スジフリで設定された誘拐の話題から、誘拐された息子の話題へと、話題を深化させるものである。しかし、これが続く15松本「うちには6年生がおるんや」の呼び水となって、「誘拐された息子」と「うちの息子」という二つの概念が、「息子の話題」という共通の条件のもとに対比されている、という図が完成する。結果的には13松本が次に「その息子を預かっている」といった内容へと展開するであろうことを予測させているから成立する図である。この13松本がマエフリである。

## 例2)【ダウンタウン①】

11 松本：(電話)「もしもし」

12 浜田：(電話)「はい」

13 松本：「お前とこになあ、小学校2年生の息子おるやろ」

---

<sup>7</sup>金水・今仁(2000)『意味と文脈 現代言語学入門4』岩波書店を参照。「フレーム」とは、複数の概念が構造を持って結び付られている、とする理論であり、例えば「家」フレームといえば、戸、窓、台所、居間、風呂、エアコンなどがその構成要素であり、「レストランでの出来事」フレームといえば、席への案内、メニューの選択、注文、食事、会計などが想定される。

14 浜田：「い、いますけど」

15 松本：「うちには6年生がおるんや」（電話をきるしぐさ）

16 浜田：なにを言うとするんや！

また、マエフリは例3の「ガラッと変わって」のように、部分的に後続発話の内容を制限するようなものも含まれる。

例3）【爆笑問題】《人間には、だれにも言えない別の一面がある、という話題》

20 太田：別にあの〇Lじゃなかったって、ほかにもいっぱいいると思うぜ、

    昼間は真面目なサラリーマン、

    それが夜になるとガラッと変わって、不真面目なサラリーマン。

21 田中：大して変わってねえじゃねえかよ！

#### 4. 考察

これまでおかしみの図、フリの説明をしてきたわけだが、ここでは図、そしてフリとの対応関係から得られた、ボケの質的特徴、形態的特徴の結果を示したい。

##### 4. 1 ボケの種類

ボケの種類には、フリとの対応関係から、その質的な相違で分類すると、「予測を利用するもの」と「予測を利用しないもの」の2種類に大別できると考えられる。端的にいえば、マエフリによって共通の条件や概念Aがボケの部分より前に設定されているものが「予測を利用するボケ」、ボケの部分において、はじめておかしみの図で設定されている共通の条件や概念Aが明るみになるものが「予測を利用しないボケ」である。

おかしみの図の完成過程のちがいが、ボケの質的相違を生み出しているのである。以下、用例にそって具体的に検討する。

##### 4.1.1 予測を利用するボケ

一般的に、笑いは予測をはずす、期待を裏切る、といった場合に生まれる、などと説明されることがあるが、これはその典型例である。おかしみの図によってその構造を説明すると、ボケの先行部分、つまりマエフリによって共通の条件、概念Aが設定されているものがこれにあたる。

例4）【夢路いとし・喜味こいし】

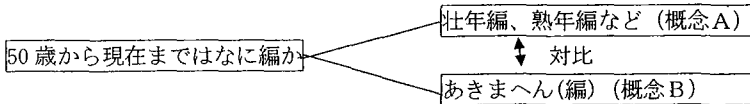
《いとしが、三部構成の自叙伝を書いているという話題》

（下線部＝ボケ、囲み線＝マエフリ）

55 いとし：オギャーと生まれてから25歳までが、青春編ですわ

56 こいし：ほう、オギャーと生まれてから25歳までが青春編

- 57 いとし：そうそうそう、25歳から50歳までが実年編  
 58 こいし：え、なに25歳から？  
 59 いとし：にじゅう……、聞いてへんのかいな、  
           25歳から50歳までがこれが、実年編やねん  
 60 こいし：なるほど、真ん中、つまり50歳までが実年編か  
 61 いとし：そうそうそう  
 62 こいし：わかった、ほたら50歳からいまの年まではなに編や  
 63 いとし：「あきまへん(編)」  
 64 こいし：あきまへんて  
 65 いとし：体が言うこと聞かへんようになってね



おかしみの図の完成過程を説明すると、この例では共通の条件が62ことし「ほたら50歳からいまの年まではなに編や」で明示されている。そして、概念Aは、55いとし「青春編」、57いとし「実年編」という語句が提示されているので、文脈的に、年齢に比例して名称が漸層的に展開していることがわかるから、63いとしで本来提示されるべき内容はある程度制限されている。つまり、「壮年編」なり「熟年編」なりと予測される。したがって、63いとしのボケまでに、図の、共通の条件と概念Aは埋められている。こうした条件下で63いとしのボケが提示されているわけである。

このように、予測を利用するボケ<sup>8</sup>(この場合は予測をはずすボケ)は、直前に「次にこういった内容の発話が続く」というマエフリがあり、それによって共通の条件が提示されるという特徴をもつ。この場合マエフリは、漫才においては「次にボケがきますよ」というある種のマーカーのような働きをし、観客の注意を引きつけているといえるだろう。こうしたマーカーによって理解主体の注意を喚起し、その上で予測を利用するボケがくるわけであるから、このようなボケはおかしみの構造を、はっきりと理解主体に印象づけるボケであるといえる。

#### 4.1.2 予測を利用しないボケ

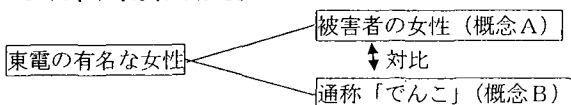
いっぽう、予測をはずす、期待を裏切る、というタイプのものではないものもボケのなかにはある。これをおかしみの図で説明すると、先行部分で共通の条件や概念Aが設定されておらず、ただスジフリによっておかしみの図の前提が提示

<sup>8</sup> 大半が予測をはずすものであるが、予測させておいて予測通りのことが起きたり言ったりした場合にもおかしみが感じられることがある。これは、おなじ概念が二つの概念として対比させられた場合とみなすことができるので、予測を利用したものになる。

されているのみで、そのボケの出現によってはじめて、おかしみの図の諸要素が判明する仕組みになっている。つまりマエフリがない状態で提示されているボケ、これが予測を利用しないボケである。

#### 例5)【爆笑問題】

- 01 田中：東京電力のエリートOLが殺害された事件が、意外な話題を呼びましたね。  
02 太田：そう。事件を調べていくうちに、被害者の女性は昼と夜で違う顔をもつ女性だったということがわかってきてね。  
03 田中：昼間は東電のエリートOL、ところが、夜になると渋谷のホテル街の至る所に出没する、有名な女性だった。  
04 太田：通称「でんこ<sup>9</sup>」って呼ばれてたらしいね。  
05 田中：呼ばれてねえよ！



仮に04太田の前に、「どのくらい有名だったんでしょう」「なんて呼ばれたかね」といったマエフリが入った場合は、共通の条件、概念Aが設定され、予測を利用するボケになる。しかし、この例ではそういった作業を省き、唐突に概念Bを提示することではじめて、おかしみの図の諸要素が明らかになる。つまり、瞬時にして図が完成する仕組みとなっている。

ボケの先行部分に、次にくる発話の内容を制限するものがないので、予測を利用しないボケは、瞬間的なインパクトの強いボケであるといえる。

以上がボケの質的特徴の2種である。フリとの対応関係でいうと、スジフリとマエフリが存在するものが予測を利用するボケ、スジフリだけでマエフリが存在しないものが予測を利用しないボケだということができる。

## 4. 2 ボケの現出の型

ここではボケを、おかしみの図との対応関係からその現出の形態的特徴を分類した結果を示す。ボケの現出の型には、共通の条件を同一フレームとして、以下の4種があることが確認された。

- ① 1スロット<sup>10</sup>単独で現出する単独型
- ② 各スロットを列挙する列挙型

<sup>9</sup>1997年当時のCMに登場した東京電力のマスコットキャラクターの名前。

<sup>10</sup> スロット=変項。金水・今仁(2000)参照。たとえば「家」を共通の条件(同一フレーム)とした場合、「戸」「窓」「台所」「居間」「風呂」「エアコン」などの構成要素がスロットとして挙げられる。

③最初のスロットをマエフリとして新たなスロットを連鎖して展開していく  
連鎖型

④別々の箇所での同一のフレーム（同じ共通の条件）を見出し同じスロット（概念B）を提示する点在型

以下、それぞれの用例に上の番号を当てて用例を示す。なお、用例中の囲み線部はフリ（スジフリ、マエフリ）、下線部がボケである。

#### 4.2.1 単独型

例6) 【ダウンタウン②】

《クイズ番組がおもしろいので、いまやってみよう、という場面》

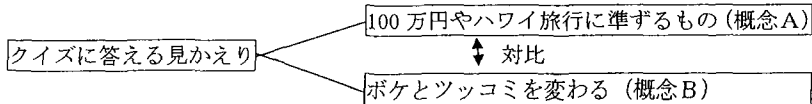
93 松本：うん。オレがクイズ出してお前が答えるということにして

94 浜田：ちゃう。いま言うたやろ、クイズ正解したら、賞金100万、副賞にハワイ旅行。な？100万とは言わん、ハワイ旅行とは言わん、だけどな、

なんか見かえりがなかったら。答える気持ちも、考えてくれ

95 松本：じゃ、お前が答えられたときは、①明日からボケとツッコミ変わってやる

96 浜田：いらんわ！



①の単独型はきわめてオーソドックスなボケの形であり、単独型現出の後にまた次の話題へと展開していき、また単独型が現出する、というのがオーソドックスな漫才の展開であろう。

#### 4.2.2 列挙型

列挙型は、単独型のボケに続き同一フレームでのスロットが列挙されているものである。

例7) 【ツービート】

《漫才師もスター扱いされて、年をごまかすようになった、という話題》

55 たけし：わたしね、週刊誌では「31、31」って書いてありますけどね、実は19なんです。

56 きよし：嘘つけ！

57 たけし：お前だって！ ①こいつ戦争に行ったことあるんですよ。

58 きよし：ちょっと待てよ、戦争なんか行くか、俺が！

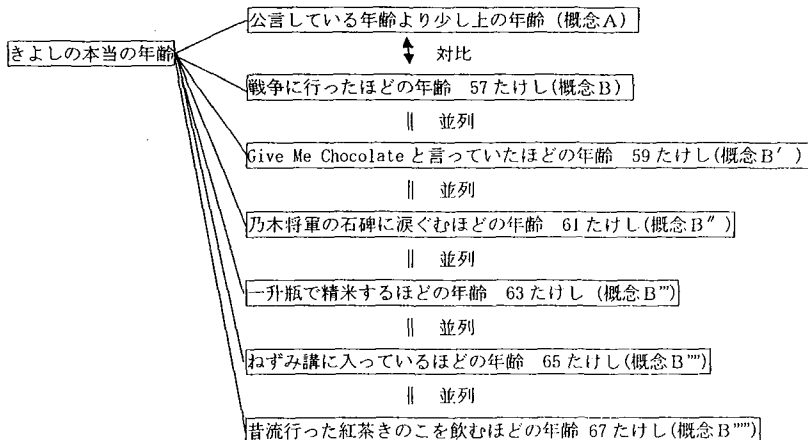
59 たけし：②ジープに乗った外人見ると「チョコレートくれ」って手え出してんの。

60 きよし：やかましいよ！ バカなこと言うなよ。

61 たけし：②お前、乃木將軍の石碑見ると涙ぐむっていうじゃねえか。



- 62 きよし：知らねえっての！  
 63 たけし：②未だに一升瓶に米入れて、こう(押し出す仕草)  
 64 きよし：やかましい！  
 65 たけし：②だって、漫才師でねずみ講入ってるの、お前だけだよ。  
 66 きよし：(激しく突っ込んで)いつの時代の話してるんだよお前は！  
 67 たけし：②いまだに紅茶きのご飲んでるっていうじゃないか！



図をみても明らかであるが、それぞれのボケは全て「きよしの本当の年齢」という共通の条件を同一フレームとしたスロットであり、並列関係にある。列挙型は集中的にボケを提示することによっておかしみを感じさせる箇所を増やし、おかしみを増幅させようとする意図が読み取れる。また、レトリックの観点からいえば、スロットは漸層的な配列のほうが効果的であろう。

#### 4.2.3 連鎖型

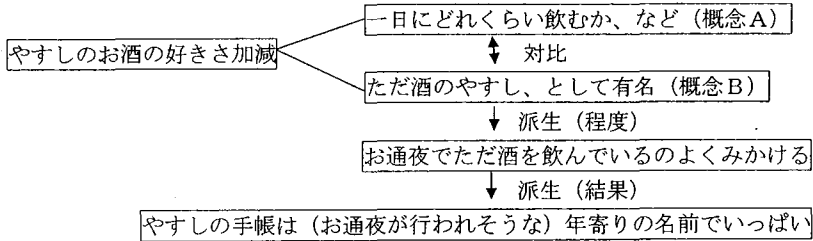
最初に現出するボケをきっかけとし、後続するボケが羅列されているという点では列挙型と似ているが、連鎖型のボケは直前のボケが存在しないと導出できないという点で、これを列挙型と区別する<sup>11</sup>。

例8)【横山やすし・西川きよし】

- 131 やすし：ボケはまた、お酒呑むのが好きなんですわ  
 132 きよし：好きですよー  
 133 やすし：ええ

<sup>11</sup> 列挙型・連鎖型とも、漫才用語では「カブセ」と言い慣わされている技術のようであるが、この用語については参照する文献は見当たらない。

- 134 きよし：とにかく①「ただ酒のやすし」って有名ですからね  
 135 やすし：そんなことあるかい  
 136 きよし：③あーどこぞでお通夜があるなあ、思ったら、隅のほうで  
 137 やすし：待てや、アホ、そういう汚い言いかたすな  
 138 きよし：③もう彼の手帳、町内の年寄りの名前ばっかり



このように、各スロットは、一応は「やすしのお酒の好きさ加減」を物語るエピソード、という点では共通の条件下にあるのだが、「ただ酒」という語句がないと、ただ酒の飲める場としての「お通夜」が導出できないし、「お通夜」という語句が出てこなければ、そろそろお通夜を迎えそうな、つまり死にそうなお年寄りの名前がたくさん書いてある「手帳」のエピソードは導出できない。こういった点が列挙型との違いである。ただ、連鎖型も列挙型同様、表現主体が、ボケをたたみかけることによって、おかしみを増幅させようという狙いが読み取れる。

#### 4.2.4 点在型

##### 例9) 【ダウンタウン①】

《誘拐犯松本が、被害者の親浜田に、身代金の受け渡し場所を指示する場面》

28 浜田：名前言うてどないするねん！ おるとこ言うてどうすんの！

そんなこと言ったらしゃーないでしょ！

遠いとこ言えよ！普通遠いとこやる！

29 松本：(電話)「あ、もしもし」

30 浜田：(電話)「はい」

31 松本：「①あの一、チェコスロバキアの……」

32 浜田：思いつきでしゃべんな。なあ。遠すぎるやないか！

お前来るのかチェコスロバキアまで。あいだ取れ！家とチェコスロバキアの。

《この間、別の話題を挟んで、受け渡しの確認》

75 松本：「遅れんなよ」

76 浜田：「……はい」

77 松本：「遅れたら先行くぞ」

78 浜田：どこへや！

## 79 松本：④……チェコスロバキアやないかい！

おかしみの図における共通の条件が、ある程度の間隔をおいて再度見出されたときに点在型のボケが現出する。したがって、先行部分に単独型のおなじボケが存在しないと、導出されない。

点在型のボケは間隔をおいて見出した同一フレームに同一のスロットを提示するというのが特徴的で、そのインパクトや効果は場合によっては非常に大きくなることがある。というのは、そのボケ自体によって完成する図のおかしみもさることながら、同一のボケが現出する場所が予測の範囲外だからである。ボケの現出場所に関しては別稿で触れることとするが、芸人それぞれがもっている「ギャグ」と呼ばれるものは、この点在型のボケが反復されることによって、常套句として馴染み深いものとして知られるようになったものだ、と考えることができる。

以上のように、ボケには4種の現出型があることが確認できた。しかしこれからは基本形であって、実際の漫才ではこれらの型が複合されているものもある。

### 5. まとめ

以上、本稿ではフリ、おかしみの図などの概念を用いてボケの質的特徴・形態的特徴を示した。

質的特徴に関しては、従来「笑い」を語るうえで定義されることの多かった「予測はずし」以外にも、予測を利用しないものがあることを確認した。両者の相違点は、スジフリとマエフリが存在するものが予測を利用するボケ、スジフリだけでマエフリが存在しないものが予測を利用しないボケであった。

形態的特徴に関しては、①単独型、②列挙型、③連鎖型、④点在型、の4種の基本形ともいえる現出の型を示した。この分類を援用して、漫才一編を通しての型の現出のしかたもそのコンビの文体(芸風)を測るに有効であると考えてるので、これは今後の課題としたい。

なお、ボケの言語的特徴という意味では、レトリックをはじめさらに多くの観点からもその特徴を総合的に把握する必要があるのでこれも今後の課題である。

### 資料

【ツービート】白夜ムック No.51(1999)「笑芸人」白夜書房

【爆笑問題】爆笑問題(2000)『爆笑問題の日本原論 2000』宝島社

【横山やすし・西川きよし】(1996)『やすきよ漫才傑作選②』コロンビア (CD)

【ダウンタウン①】【ダウンタウン②】(1996)『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで 傑作漫才全集1』VAP (ビデオ)

【夢路いとし・喜味こいし】(1996)『漫才の殿堂』ポニーキャニオン (ビデオ)

## 参考文献

- 秋田實(1972)『笑いの創造—日常生活における笑いと漫才の表現』日本実業出版社
- 安部達雄(2004)「笑いとは何か —漫才における「フリ」のレトリック—」『文体論研究』第50号 日本文体論学会
- 石黒圭(2001)「予測と笑い —予測をはずすレトリック—」『表現研究』第73号 表現学会
- 木村寛子(2003a)「おかしみを生む言語表現とその理解 —漫才を資料として—」『早稲田日本語研究 第11号』早稲田大学日本語学会
- (2003b)「おかしみを生む発想について —漫才における表現の展開から—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第49号
- (2004)「おかしみを生む言語表現の印象と展開 —漫才を資料として—」『文体論研究』第50号 日本文体論学会
- 金水敏(1992)「ボケとツッコミ—語用論による漫才の分析—」『上方の文化 上方ことばの今昔』和泉書院
- 金水敏・今仁生美(2000)『意味と文脈 現代言語学入門4』岩波書店
- ケストラー A(1983)『ホロン革命』(田中三彦・吉岡佳子訳：原著 1978) 工作舎
- 小泉保(1997)『ジョークとレトリックの語用論』大修館書店
- 澤田隆治(1977)『私説コメディアン史』白水社
- ショーペンハウエル A(1972)『ショーペンハウアー全集2 意志と表象としての世界 正編1』(斎藤忍随ほか訳：原著 1966) 白水社
- 関綾子(1999)「おかしみの構造に関する一試論 —漫才を資料として—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第45号
- (2002)「おかしみの生成における言語操作の構造 —漫才を資料として—」『早稲田日本語研究 第10号』早稲田大学国語学会
- (2003a)「おかしみ生成における誤解誘導の言語操作 —漫才を資料として—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第48号
- (2003b)「おかしみ生成における『悪態』のレトリック —漫才を資料として—」『文体論研究』49号 日本文体論学会
- 中村明(1991)『日本語レトリックの体系』岩波書店
- (2002)『文章読本 笑いのセンス』岩波書店
- 中村平治(1996)「笑いの技巧」『福岡大学人文論集』28(1) 福岡大学総合研究所
- 野村雅昭(2000)『落語の話術』平凡社
- 橋内武(1983)「漫才という言語行動」『ノトログ 清心女子大学紀要 国語・国文学編』7-1
- 山梨正明(1988)『比喩と理解』東京大学出版会

付記：本稿は2003年12月6日、早稲田大学で行われた早稲田大学日本語学会における口頭発表をもとにしたものである。ご指導くださった先生方に心より感謝申し上げます。